

基本計画（中間案） 府民協働で取り組む きょうとチャレンジ

「子育て環境日本一」きょうとチャレンジ	1頁
「府民躍動」きょうとチャレンジ	3頁
「文化創造」きょうとチャレンジ	5頁
「新産業創造・成長」きょうとチャレンジ	7頁
「災害・犯罪等からの安心・安全」きょうとチャレンジ	9頁

「子育て環境日本一」きょうとチャレンジ

<p>基本方針 (案)</p>	<p>行政、府民、地域、企業などあらゆる主体の総力を結集し、「子育て」の視点から社会を変革する</p>
<p>到達目標 〔数値目標の候補〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■「住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境」だと思ふ人の割合を●%にアップさせる（府民意識調査 2018年：82%） ■子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合を●%にアップさせる（府民意識調査 2018年：83%） ■「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」を行った企業数年間●社以上に増加させる（2019年制度創設） ■子育てに喜びや楽しみを感じている親の割合を●%にアップさせる（府民意識調査 2019年項目新設予定）
<p>主な重点・新規方策 (案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■「子育て環境スローガン（宣言）」の発信 京都で活躍する有識者等で構成する「子育て環境日本一Top会談（仮称）」を設置し、「子育て環境スローガン（宣言）」の発信などを推進します。 ■地域子育て充実度見える化システム 新たに地域の子育て環境の充実度を数値化する指標を構築し、それを通じて自治会等の各地域がコミュニティで考え、各地域で自発的に行動する意識を高めます。 ■子育て環境日本一に向けた「職場づくり行動」運動 「子育て企業サポートチーム」の企業訪問により、「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」の取組を進め、時間単位の年休取得、不妊治療に係る休暇、短時間勤務等の柔軟な制度導入と、男女がともに働きやすい職場環境づくりを進めます。 ■企業の意識改革「ワークチェンジ塾」 子育てにやさしい職場づくりを進めるため、経営者・若手男性社員などを対象にした意識改革の合同研修会を開催するとともに、男性社員の育児休業取得促進やワークライフバランスを考慮した人事評価制度の導入を支援します。 ■「子育てに優しい職場環境づくりサービス」提供モデル創出支援 子育てに優しい職場環境づくりを提供するビジネスモデルの創出を支援します。 ■ホップ・ステップ・ジャンプ型就業プロジェクト 女性のM字カーブを解消するため、子育て期からの仕事復帰を、「在宅ワーク」「共同サテライトオフィス勤務」など段階的に進めて企業への就職につなげる新しいビジネスモデルの創設を支援します。 ■若者向け「ライフデザインカレッジ」 SNS等を活用して結婚や子育てに関する支援制度等を発信するとともに、若者が、就学、仕事、結婚、子育てなどのトータルの人生設計を早期に考え、多様なライフデザインを自ら選択することができるよう、ワークショップや仕事と子育ての両立体験インターンシップなどの機会を提供します。 ■新卒離職「3年の壁・再チャレンジプロジェクト」 新卒3年以内の離職など早期離職者について、インターンシップの実施や研修会の開催など、ブランクを空けない就業復帰を支援することで「安定就業」を進めます。 ■地域の働く場創出・育成プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ▶ ピッチ会やアイデアソンを通じたアクセラレーションプログラムの運営により、世界中から創業を目指す若者が集まる拠点エリアづくりを進めます。 ▶ 地域資源を生かした商品づくりや農家民宿・農家レストランなどの小さな仕事興しをはじめ、伝統産業の商品開発力向上に向けた「NEO KOUGEI」の製造など、地場産業の成長を支援します。 ▶ 子どもが元気に遊び回れる公園や子育て中の方がテレワークできる機能を有した「子育てに優しい企業団地」の整備を促進し、企業立地を進めます。 ■周産期医療体制の強化 府立医科大学附属病院においてNICU（新生児集中治療室）を増床するとともに、京都第一赤十字病院、京都大学医学部附属病院に加えて「総合周産期母子医療センター」に指定するなど、周産期医療ネットワークを拡充します。 ■不妊治療総合支援システム 男性の不妊治療に係る支援の拡充など不妊治療に係る経済的負担の軽減に加え、特定不妊治療に係る通院交通費の負担軽減制度を創設するとともに、企業等における不妊治療休暇制度の導入を支援します。

施策体系図

※ ここでは、府の主な方策に加えて「子育て環境日本一」の京都をめざし、府民・地域・企業等の方々とともに取組みを進めたい事項も記載しています。

【子育てにやさしい風土づくり】

- 「子育て環境スローガン（宣言）」の発信
- 地域子育て充実度見える化システム
- 子育て環境日本一に向けた「職場づくり行動」運動
- 企業の意識改革「ワークチェンジ塾」
- 京都経済センターのテレビ会議システムによる「子育て支援セミナー」等の開催
- 若者向け「ライフデザインカレッジ」
- 「きょうと婚活応援センター」に府内の婚活情報を集約しSNSで情報提供

【子育てしやすい地域・街づくり】

- 【医療・保育環境の整備等】
- 周産期医療体制の強化
- 保育所・放課後児童クラブの整備
- 周産期医療の充実・強化
- 児童虐待の未然防止・対応力強化
- 府営住宅の子育て世代向け改修
- 「コレクティブハウス」の支援
- 【子育て世代の経済的負担軽減】
- 不妊治療総合支援システム
- 保育に係る費用の負担軽減
- 【地域子育て支援】
- 「子育て支援団体」の認証
- 「赤ちゃん応援隊」の活動支援
- 地域の子育て支援団体・NPOの活動支援

子育て環境 日本一 きょうと チャレンジ

【安心して子育てできる 雇用環境等の創出】

- 新卒離職「3年の壁・再チャレンジプロジェクト」
- 地域の働く場創出・育成プロジェクト
- 「子育てに優しい職場環境づくりサービス」提供モデル創出支援
- ホップ・ステップ・ジャンプ型就業プロジェクト
- 京都ジョブ博の開催等による企業とのマッチングサポート
- 奨学金返済支援制度の普及促進

【府民・地域・企業等とともに取組みを進めたい事項】

【府民・地域等】

- まちなかで子育て世代を「邪魔・迷惑扱い」しない「やさしい社会」づくり
- 子育てに自然と手を差し伸べる雰囲気づくり
- 子育て中の若い世帯を孤立させない地域づくり
- 地域コミュニティ形成による子ども・親の交流促進
- 子育て支援を行う団体の活動への参画
- 子育ての悩みを気軽に身近で相談できる地域づくり

【企業・経営者】

- 女性も男性も育休が取りやすい雰囲気と環境づくり
- 経営者・社員の意識改革
- 時間休制度の創設や子育てに関する福利厚生の充実
- 新卒離職者に再チャレンジの機会として新卒同様に採用
- 若い社員が孤立しないよう他社との同期連携など柔軟なグループ形成

「府民躍動」きょうとチャレンジ

<p>基本方針 (案)</p>	<p>人生100年時代を見据え、府民の誰もが生きがいを感じることでできる共生社会づくりを進める</p>
<p>到達目標 〔数値目標の候補〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■「仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思う人の割合」を●%にアップさせる（府民意識調査 2018年：53%） ■「趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合」を●%にアップさせる（府民意識調査 2018年：59%） ■高齢者の有業率を●%にアップさせる（2017年：25.9%） ■「今の社会は、性別によってやりたいことが制限されていると思わない人の割合」を●%にアップさせる（府民意識調査 2018年：57%） ■「障害のある人とない人がともに交流したり、活動する場に参加している人の割合」を●%にアップさせる（府民意識調査 2018年：18%）
<p>主な重点・新規方策 (案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■生涯現役クリエイティブセンター 高齢者が年齢にかかわらず、その技術や能力を農業や商工業・福祉などの様々な分野で発揮できるよう、仕事や生活・健康増進に係る情報提供から相談・マッチング、産業界や大学等と連携した研修・活躍の場づくりまでトータルにコーディネートします。 ■地域別健康課題克服プロジェクト 3大生活習慣病である、がん・心疾患・脳血管疾患等を減少させるため、健診データやレセプトデータ等のビッグデータなどから地域の健康課題や個人の健康阻害要因を明らかにし、健康づくりから安心できる医療提供体制の構築まで、市町村等とともに対策を講じます。 ■歩きたくなる健康まちづくりプロジェクト 道路や公園・河川などで、楽しく歩きたくなるネットワークや健康プログラム等を市町村やNPO等と連携して提供します。 ■女性活躍応援塾(仮称) 地域で活動する団体・個人の発掘・育成を行うほか、活動情報を一元化して発信し、地域で活躍する女性を総合的に支援します。 ■京都式農福連携・6次産業化プロジェクト 就農人材を育成するチャレンジ・アグリ認証の上級課程の構築や6次産業化支援など、障害者の農業分野での就労を促進します。 ■産学公連携海外人材活躍ネットワーク 研究者等の高度外国人材や介護・農業など特定技能者等の外国人の方々、留学生が安心して活動し暮らせるための受入体制を構築し、海外ネットワークを生かした人材確保から、インターナショナルスクールの誘致や居住環境面の相談、地域の多文化共生まで、オール京都でサポートします。

施策体系図

※ ここでは、府の主な方策に加えて「府民躍動」の京都をめざし、府民の皆さんとともに取組みを進めたい事項も記載しています。

【高齢者の躍動】

- 生涯現役クリエイティブセンター
- 地域別健康課題克服プロジェクト
- 歩きたくなる健康まちづくりプロジェクト
- 京都SKYシニア大学の北部サテライト設置
- 高齢者スポーツの裾野の拡大

【女性等の躍動】

- 女性活躍応援塾(仮称)
- 女性アントレプレナーサポートチームによる起業支援
- 女子中高生の理系進路選択を支援
- 男性の家事・育児への参画を進める、企業における育休取得率向上等の推進
- 性の多様性に対する啓発推進・相談体制の確保

【障害者の躍動】

- 京都式農福連携・6次産業化プロジェクト
- ICTを活用した就業支援の仕組みづくり
- 文化芸術・スポーツ分野の活動・交流の場づくり

府民躍動

きょうと チャレンジ

【留学生・外国人の躍動】

- 産学公連携海外人材活躍ネットワーク
- 府内企業に就職した留学生OBとの交流会など、マッチングの促進
- 日本語教室の充実など地域の受入環境の整備、多言語生活相談体制の整備

【府民の皆さんとともに取組みを進めたい事項】

- 自らの能力を発揮できるキャリアデザインを描く
- 希望に応じた生き方・働き方を通した、地域での活躍の場の発見
- 元気に歳を重ねることができるよう、自らの健康のチェック
- 育休取得やワークシェアなど、働きやすい職場環境づくり
- まちな出かけ、コミュニティの健康づくりへの参加
- 企業での実践型実習や、農業分野での就労へのチャレンジ
- 「留学先・学びのまち」京都での夢の実現
- ICTを活用した在宅就業などへのチャレンジ
- 京都での新たな文化・産業・技術の創出
- 文化芸術・スポーツ分野の活動・交流への参加
- 外国人も日本人もともに互いの文化を理解し尊重し合える地域社会づくり

「文化創造」きょうとチャレンジ

<p>基本方針 (案)</p>	<p>地域文化を大切にするとともに新しい文化が生まれ続け、地域に活力を生み出す社会を、文化庁が本格移転する京都から進める</p>
<p>到達目標 (数値目標の候補)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■若手アーティスト（40歳以下）を対象とした府内のアートフェア等に参加するアーティスト数を●人に増加させる (2018年度：108人) ■府内のアートフェア等における販売額を●万円に増加させる (2018年度：2,515万円) ■文化・芸術に関わりを持つ（鑑賞・体験含む）人の割合を●%にアップさせる (2018年度京都府文化施策に関する府民意識調査：57.8%) ■「歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人」の割合を●%にアップさせる (府民意識調査 2018年：81%)
<p>主な重点・ 新規方策 (案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ミュージックキャンプ・府民総合奏 府内各地でミュージックキャンプを開催し、その成果を府立京都スタジアムで発表し、音楽の裾野を拡大します。 ■障害者アート創造・発信プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ▶文化芸術活動を行う障害者のアート作品を様々な機会を活用して販売したりポストカードとして商品化するなどの取組を進めます。 ▶障害者アートについて、新しい作家の発掘を含め、その創作活動とともにデジタルにより記録・保存し、広く国内外に発信します。 ▶きょうと障害者文化芸術推進機構と府内の芸術大学とのコラボレーションによる作品展等を開催します。 ■京都国際アートフェア 世界で活躍する一流アーティストの作品や京都と世界のクラフトを一堂に鑑賞、販売できる機会を提供し、日本の現代アートの価値向上やクラフトの世界展開を後押しします。 ■地域文化次世代情報発信・体験拠点 VR、AR等を活用した地域の文化資源を体験できる文化発信・観光まちづくりの拠点を整備します。 ■堀川アート&クラフトセンター(仮称) クオリティーの高い多様なイベントの展開により、アート&クラフトの創造・発信を強化します。 ■北山エリア「シアターコンプレックス」 旧総合資料館跡地を活用し、様々な規模の劇場等が集積したシアターコンプレックスを整備します。 ■文化財保存・活用促進プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ▶社寺等の文化財において地域の特色を生かした文化に親しむ取組を支援するとともに、文化財の公開等を支援する、文化財の専門知識を有した人材を養成します。 ▶文化財の高精細画像化やVR・AR等の利用を図り、観光・教育資源として活用するほか、関西文化学術研究都市において、触れることのできるクローン文化財の展示・作製の拠点を整備し、アジアの文化財センターをめざします。 ■地域文化継承プロジェクト 暮らしの中に息づく伝統文化や生活文化を守り伝えるため、地域の祭りや伝統行事の担い手確保に向け、大学生など外部人材の活用の仕組みを創設するとともに、文化庁との連携による支援制度を充実します。

施策体系図

※ ここでは、府の主な方策に加えて「文化創造」の京都をめざし、地域や企業、文化・芸術関係者等の方々とともに取組みを進めたい事項も記載しています。

【新たな文化創造】

- ミュージックキャンプ・府民総合奏
- 障害者アート創造・発信プロジェクト
- 先端科学・産業技術研究者と文化芸術関係者との知的創造のための交流の場を創出
- クロスメディア産業育成のため、クリエイターや研究者が交流できる環境を整備
- 地域アートマネージャーによる文化を活用した地域活性化
- 伝統芸能や美術工芸など多分野の文化芸術団体をネットワーク化

【観光・産業との融合】

- 京都国際アートフェア
- 地域文化次世代情報発信・体験拠点
- もうひとつの京都など文化資源を生かした地域振興
- 文化芸術作品の製作、発表から海外市場も含めた販売まで京都で一貫して行うことができる一連のサイクルを創出

【人材育成・活動拠点整備】

- 堀川アート&クラフトセンター(仮称)
- 北山エリア「シアターコンプレックス」
- 世界で活躍できる京都アーティストの育成
- 府立大学と連携した和食文化人材育成
- 文化芸術専門人材の確保と持続的な事業推進のための体制整備
- 学校における文化体験等の次世代育成

文化創造

きょうと チャレンジ

【文化の保存・継承・活用】

- 文化財保存・活用促進プロジェクト
- 地域文化継承プロジェクト
- 史跡を巡るツアーの実施や、国宝等の文化財建造物修理現場の公開
- 文化財のまちづくりへの活用

【地域や企業、文化・芸術関係者等とともに取組みを進めたい事項】

【地域・府民】

- 地域に受け継がれてきた祭りや伝統行事の保全と、次世代への承継
- 誇るべき文化財や自然環境などが世界遺産や日本遺産に登録されるための、草の根の取組み

【企業・大学】

- 和食や文化芸術に携わる人材の育成とバックアップ
- 美術品や関連の商品・サービスなど「アート産業」の振興や、他分野との連携
- 芸術と融合した新しい商品・サービスの創出

【文化・芸術関係者】

- 創作活動と技術の承継
- 世界のアート関係者との交流やネットワークづくり
- 文化芸術の保全と国内外への発信
- 文化芸術の裾野拡大に向けた多様な体験の機会提供

「新産業創造・成長」きょうとチャレンジ

<p>基本方針 (案)</p>	<p>企業のスタートアップから成長、継承まで、イノベーションが起これ続ける最適な事業環境の創造を京都から進める</p>
<p>到達目標 〔数値目標の候補〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■開業率を●%にアップさせる (2016年：4.3%) ■従業者一人当たりの付加価値額（製造業）を●百万円に増加させる (2016年：14百万円（全国12位）) ■新たに海外展開に取り組んだ企業数を●社に増加させる (2018年：10社) ■農林水産業の産出額を●億円に増加させる (2017年：803億円)
<p>主な重点・ 新規方策 (案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■起業するなら京都・プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ▶ スタートアップ企業が単独では実現困難なビジネスアイデアを実現するアクセラレーションプログラムの取組み（世界中の有能な人材が京都に3ヶ月程度滞在し、ピッチ会やアイデアソンの実施により投資を集める）を推進し、世界中から有能な人材や企業が集う仕組みをつくります。 ▶ 多様なニーズに対応したインキュベート施設を供給します。 ▶ 創業支援、経営革新、販路開拓など、中小企業応援センターでトータルサポートします。 ▶ 高校生を対象にした「ベンチャー講座」を開設します。 ■京都VR・AR拠点 <p>今後、産業・教育分野において需要拡大が見込まれるVR（仮想現実）・AR（拡張現実）技術等について、企業活動の積極的な支援や「京都VR・AR拠点」の形成を行います。</p> ■シェアリングエコノミー促進プロジェクト <p>音楽等のサービスから自動車、衣服など、物の利用サービスへと広がりつつある、サブスクリプション(定額) ビジネス分野も見据えて、地域資源を生かした京都独自のビジネス展開を推進します。</p> ■ミニMICE誘致促進プロジェクト <p>学会等大規模なものだけでなく、会議や招聘旅行等小規模なものも誘致し、農家民宿の活用等地域資源を活用した多様なMICEを京都府域へ誘致します。</p> ■オール京都「高度人材育成プログラム」 <p>新卒者から管理職、経営者までシームレスな研修をオール京都体制で実施するとともに、中小企業大学校と連携し、高度人材を育成します。</p> ■Ma a S + α 促進プロジェクト <p>「Mobility as a Service」の取組について「Mobility（交通利用のスマート化）」だけでなく、「Communication（テレビ・Web会議）」や「Factory（工場）」などの分野においてもクラウドサービスを活用した新たなビジネスの創出など、柔軟なスマートシティを推進します。</p> ■スマートアグリ・イノベーションセンター <p>AI・IoTによるデータに基づく農林水産業の取組を本格化させるとともに、ロボットを活用した自動化を推進します。</p>

施策体系図

※ ここでは、府の主な方策に加えて「新産業創造・成長」の京都をめざし、企業・農家、地域・府民等の方々とともに取組みを進めたい事項も記載しています。

【スタートアップ支援】

- 起業するなら京都・プロジェクト
- 産業拠点のネットワーク化
 - ・京都経済センター
 - ・丹後・知恵のものづくりパーク
 - ・北部産業創造センター
 - ・京都府産業支援センター
 - ・けいはんなオープンイノベーションセンターKICK 等
- ベンチャー、学生、職人、芸術家等交流促進
- 「農業ベンチャー・インキュベーションファーム」の開設

【成長支援・海外展開】

- 京都VR・AR拠点
- シェアリングエコノミー促進プロジェクト
- ミニMICE誘致促進プロジェクト
- 「京都海外ビジネスセンター」を設立し、「Made in Kyoto」をコンセプトとしたブランドの構築
- 伝統産業について質の高い「NEO KOU GEI」を製造するマーケットイン型の生産支援
- 世界博物館会議(ICOM)京都大会を契機とした「KYOTO KOU GEI WEEK」の開催
- 海外需要拡大に向けた「宇治茶プレミアムブランド戦略」の推進
- 京都経済センターでの産業と文化の知的創造のための交流の場の創出

【承継・人材育成】

- オール京都「高度人材育成プログラム」
- 中小企業の事業承継支援
- 「職人技」を3Dスキャナー等を活用し後継者へ技能伝承
- 農業・林業大学校におけるICT、AI等技術を活用したカリキュラムの開設

新産業 創造・成長

きょうと チャレンジ

【AI・IoT等の活用促進】

- MaaS+α促進プロジェクト
- スマートアグリ・イノベーションセンター
- 大学やAIベンチャー企業と連携した小規模事業者のAI・IoT活用支援
- ロボット技術の研究開発（けいはんなロボット技術センター）

【企業・農家、地域・府民等とともに取組みを進めたい事項】

【企業・農家】

- 異業種交流、産学公連携等を通じた商品開発や人づくり
- 後継者不足などにより事業継続が困難となる前の早めの準備による事業承継
- 農商工連携や6次産業化への取組

【地域・府民等】

- 農家民宿の活用等地域資源を活用した多様なMICEにおける地域のおもてなし
- スマートシティ、スマート農山漁村づくりと連携した、次世代型地域づくり
- 京都発ベンチャーなどが生み出す新たな商品やサービスの積極的な活用

「災害・犯罪等からの安心・安全」きょうとチャレンジ

<p>基本方針 (案)</p>	<p>災害や犯罪等から府民の命と財産を守るため、A I等の活用によりハード・ソフト一体となった最先端の危機管理・安心安全体制を構築する</p>
<p>到達目標 (数値目標の候補)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■災害時声掛け隊の人数を●人養成する (2019年創設) ■刑法犯認知件数を●件以下に減少させる (2018年：16,821件) ■交通事故死者数を●人以下に減少させる (2018年：52人)
<p>主な重点・ 新規方策 (案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■危機管理センター設置等、防災対応力強化 新たに危機管理センターを設置し、オペレーションルームの常設、国等の応援機関の専用スペース・リエゾン室の確保、4振興局へのサブセンターの設置等、京都市及び府内市町村対策本部とのネットワークを強化します。また、府・市町村の災害発生時対応業務について、図表等を用いて視覚的にも分かりやすく標準化するとともに、総合防災情報システムの整備、国のISUT（災害時情報集約支援チーム）との連携体制の確立、備蓄管理システムの整備、防災情報の多言語発信、洪水氾濫状況等のリアルタイム配信など、最先端の危機管理体制を構築します。 ■逃げ遅れゼロ・プロジェクト 府内全ての自主防災組織における水害等避難行動タイムラインの策定と「避難時声掛け体制」を確保するとともに、災害危険情報の対象エリアを精緻化し、重要なエリアに絞ってプッシュ配信することにより、情報の信頼性を向上させます。 ■A I活用「氾濫早期予測システム」 降雨情報(X-Rain)とマイクロな地形情報、実績水位をもとに早いタイミングで中小河川の洪水を予測するシステムを開発し、防災情報に実装します。 ■防災基盤の整備 桂川や由良川の改修の促進、既存ダム等の洪水調節機能の最大化に取り組むとともに、老朽化したため池の適切な維持管理、防災重点ため池の浸水想定区域図の公表、ため池ハザードマップの作成など総合的な防災対策を講じます。 いろは呑龍トンネルについて、南幹線及び呑龍ポンプ場の整備を推進するとともに、流入量・貯留量の予測精度を上げ、より正確な浸水予測情報を発信し貯留機能と流下機能を最大限に発揮させる運用を確立します。 ■A I活用「予測型犯罪防御システム」 犯罪の発生情報を集約、A I等を活用して情報の分析機能を強化するなど、予測型犯罪防御システムの高度化を図り、先制的なパトロールや効果的な情報発信等により、更なる犯罪抑止対策を推進します。 ■子どもの交通安全「安心空間」確保プロジェクト ▶ 通学路やお散歩コース等の園外活動における交通事故防止のため、路肩の拡幅やポールの設置など、地域、保育所・幼稚園、学校、行政、警察等が連携して、子どもが安心して通行できる交通環境の整備を推進します。 ▶ 車両運転者への対策として、交通安全教室等あらゆる機会を活用し、安全運転サポート車や急発進抑制装置装着の技術開発や普及を進めます。 ■G I S活用・交通事故防止対策 G I Sを活用した交通事故の発生原因等の多角的な分析に基づき、原因別に重点を絞った街頭活動の展開や自転車通行帯等の道路交通環境の整備等、地域の交通実態に即した交通事故防止対策を進めます。

施策体系図

※ ここでは、府の主な方策に加えて「災害・犯罪等からの安心・安全」の京都をめざし、企業・府民・地域等の方々とともに取組みを進めたい事項も記載しています。

<防災>

【防災体制・情報共有】

- 危機管理センター設置等、防災対応力強化
- 逃げ遅れゼロ・プロジェクト
- AI活用「氾濫早期予測システム」
- DMAT(災害派遣医療チーム)・DWAT(災害派遣福祉チーム)ほか専門チームの養成
- 災害拠点病院における災害医療体制の強化
- 府管理全河川の想定し得る最大規模の降雨に対応した浸水想定区域図の公表
- ICT技術等を活用した迅速な情報収集と地域FM局等を通じた情報伝達
- 防災情報の多言語発信

【防災基盤づくり】

- 防災基盤の整備
- 「京都府豊かな森を育てる府民税」を活用した山地災害の未然防止
- 市街地で頻発する内水被害軽減（市町村雨水対策支援）

<防犯・交通安全>

【地域防犯力の向上】

- AI活用「予測型犯罪防御システム」
- AI等の最新技術の活用による特殊詐欺等に対する防御力の強化
- 高度化・巧妙化するサイバー犯罪やサイバー攻撃への的確な対処
- 国際化や訪日外国人急増に伴う事件・事故、遺失拾得等の対応強化

【交通安全対策】

- 子どもの交通安全「安心空間」確保プロジェクト
- GIS活用・交通事故防止対策
- 交通事故の被害者にも加害者にもならないための交通安全教育の強化
- 地域の実情に応じた高齢運転者の交通事故防止対策の推進
- 自転車通行帯等の道路交通環境の整備

災害・犯罪等
からの
安心・安全

きょうと
チャレンジ

【企業・府民・地域等とともに取組みを進めたい事項】

【防災】

- 住民による地域の災害リスクの把握や水害等避難行動タイムラインの作成
- 若手・女性など消防団への加入、ふるさとレスキューや大学生消防防災サークルへの参加
- 大規模広域災害時における企業のBCP（事業継続計画）の策定

【防犯・交通安全】

- 府民協働防犯ステーションを核とした防犯ボランティア活動への参加
- 思いやりのある運転の心がけ
- 交通安全ボランティア活動への参加
- 運転に不安を感じた場合等の、運転免許の返納の検討
- 高齢者の方々の歩行の安全等に資する反射材用品等の着用推進